

「国民を守る」は大ウソ! “戦争したい”が安倍の本心

安倍会見、「報告書」、与党協議を弾劾する!

5月15日、安倍晋三首相の私的諮問機関である「安保法制懇」は、憲法第9条の解釈を変えて集团的自衛権の行使ができるようにすべきとする「報告書」を首相に提出しました。首相は直ちに官邸で会見し、政府の「基本的方向性」を説明しました。発言の結論は、左側のカコミの内容です。テレビはこの記者会見を大々的に放送しました。

興奮して感情的 にわめいた首相

首相は、「国民の命と平和な暮らしを守る」という言葉を何回も使い、「いかなる事態であっても、私にはその責任がある」と強調しました。

戦争で政府は 国民を守らない

首相が「国民を守る」? いいえ、大ウソです。

【憲法 第九条】 戦争の放棄

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。



安倍首相は、女性や子どもや高齢者が米軍の艦船に乗っているパネルを掲げて集团的自衛権行使の事例を示し(上の写真)、次のように言いました。

「まさに紛争国から逃げようとしている、お父さんやお母さんやおじいさんやおばあさん、子どもたちかもしれない。彼らに乗っている米国の船を今、私たちは守ることができない。そして、世界の平和のために、まさに一生懸命汗を流している若人皆さん、日本人を、私たちは、福島の子どもたち90人」

3・11大震災と原発事故は、政府が国民の命と暮らしを守るために一生懸命汗を流している若人皆さん、日本人を、私たちは、福島の子どもたち90人

「限定的な集团的自衛権の行使は、憲法上許されるといって、考え方でいきたい」「憲法解釈の変更が必要と判断されれば、改正すべき法制の基本的方向を含め、閣議決定していく」

安倍方針

が甲状腺がんと診断された(疑いを含む)にもかかわらず、今なお政府や県は「原発事故が原因ではない」と言い続けています。そして安倍政権は、圧倒的な反対の声を無視して原発の再稼働に突き進んでいます。安倍首相が守ろうとしているのは資本家や財界の利益であり、そのために「戦争をしかける国」にしようとしています。戦争になって傷つき、命を奪われるのは私たちです。

「日本周辺の環境の悪化」ではなく、 資本主義の終わりが戦争危機の原因

従来の憲法解釈 では危険に？

首相に渡された安政法制懇の報告書は、「憲法の新たな解釈を提示して集団的自衛権の行使を認め、その法整備を至急行うべき」というもの。

その理由として、「我が国を取り巻く安全保障環境の大きな変化」を掲げています。

「我が国を取り巻く安全保障環境の」変化の規模と速度に鑑みれば……従来の憲法解

釈では十分に対応することができない状況に立ち至っている。「安全保障環境の大きな変化にかかわらず、その憲法論の下で安全保障政策が硬化化するようでは、憲法論のゆえに国民の安全が害されることになりかねない」

まるで「今の憲法のもとでは、国民は危険にさらされるかのように言いなして、憲法解釈の変更を迫っています。では、「報告書」の言う「環境の変化」とは、どういふことでしょうか。第一に、北朝鮮の、日本を取り巻く環境が鮮の脅威。第二に、国家間の悪化しているからではありません。安倍自身が戦争を挑発するようでは、憲法論のゆえに国民の安全が害されることになりかねない」

は、国民は危険にさらされるかのように言いなして、憲法解釈の変更を迫っています。

では、「報告書」の言う「環境の変化」とは、どういふことでしょうか。第一に、北朝鮮

鮮の脅威。第二に、国家間の悪化しているからではありません。安倍自身が戦争を挑発するようでは、憲法論のゆえに国民の安全が害されることになりかねない」

争をする国」になるための口実にすぎません。

戦争の危機が高まっている年代と同様の情勢になっています。アメリカ力を基軸とした衆の力で打倒しましょう！

安倍こそ戦争の挑発者だ！

挑発者だ！

戦争の危機が高まっている年代と同様の情勢になっています。アメリカ力を基軸とした衆の力で打倒しましょう！

1929年恐慌から第二次世界大戦に向かった1930年代と同様の情勢になっています。アメリカ力を基軸とした衆の力で打倒しましょう！

「安政法制懇、正統性なんてない」

安倍晋三首相の私的諮問機関「安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会」（安政法制懇）の北岡伸一座長代理は19日、自民党の会合で、「安政法制懇に正統性がないと（新聞に）書かれるが、首相の私的懇談会だから、正統性

なんてそもそもあるわけがない」と語った。北岡氏は首相に提示した報告書の作成で中心的な役割を果たした。

北岡氏は、安政法制懇のメンバーに集団的自衛権の行使に反対する人がいない、という報道について

も中心的メンバーの一人。

法制懇で

北岡座長代理

でも「自分と意見の違う人を入れてどうするのか。日本のあしき平等主義だ」と強調。さらに「NHKだって必ず番組に10党で出すから、議論が深まらない。鋭い論法でやっても、あとで視聴者から反発が起きる。安全保障の専門家は集団的自衛権に反対の人はほとんどいない」と持論を展開した。

安倍のブレーンの中心は JR東海の葛西



2000年に安倍晋三を囲む「四季の会」をつくった（現在は「せくら会」）。労組解体を狙って国鉄分割・民営化を強行した張本人。安政法制懇で

も中心的メンバーの一人。

北岡座長代理

でも「自分と意見の違う人を入れてどうするのか。日本のあしき平等主義だ」と強調。さらに「NHKだって必ず番組に10党で出すから、議論が深まらない。鋭い論法でやっても、あとで視聴者から反発が起きる。安全保障の専門家は集団的自衛権に反対の人はほとんどいない」と持論を展開した。

安政法制懇の北岡座長代理の居直り発言をあばく朝日新聞(5月20日)



オスプレイを使った離島奪還訓練に参加した陸上自衛隊

「集団的自衛権に反対する署名」を広げよう
用紙のダウンロードは、百万人署名運動のブログで!